

査読セミナーからの教訓

東京大学大学院医学系研究科 神馬 征峰（編集委員長）

査読制度とはおもしろい制度である。金の亡者が幅を利かす現代にあって、日本国内や世界の第一線の研究者が、ほぼ無料奉仕として投稿論文を読み、客観的に判定し、基準に達しているか否かを判定してくれる。日本には査読料を投稿料といたかたちで徴収する雑誌もある。しかし、国際誌でそのような料金をとる雑誌はほとんどない。結果として雑誌に掲載されるとなれば、数万から20万円か30万円相当の掲載料やら別刷代がかかる。しかし、少なくとも投稿・査読のプロセスにおける投稿者の負担は「ただ」である。

本学会誌も以前は投稿料を求めていた。しかし投稿数を増やし、また世界の波にのるべく、それを廃止した。数年前のことである。編集委員に対する査読の謝礼はない。ただし編集委員以外の査読者に対しては、査読の労に感謝して図書カードを送っている。海外の雑誌では査読への謝礼として3か月間購読誌の購入費をただにしたり、次回投稿して論文が採用された際の掲載料を20%ディスカウントしたりする試みがなされている。図書カードを送るというのは日本ならではの工夫であろう。

さて、このような査読制度の下、いかに査読の質をあげ、論文の質を高めるか、ということは大きな課題である。その課題に取り組むべく、セミナー第1部において査読経験も査読される経験も豊富な中村好一氏に講演をお願いした。次いで、第2部では、主として実践報告の査読のあり方に関する議論を行った。

第1部では講演の最後に、編集委員会が考えるべきこととして、いくつかの具体的な提言をいただいた¹⁾。

第1に査読に対し、「報酬を出すことについてはあまり感心しない。しかし、何らかのアワードが必要かもしれない」との見解が示された。その具体例として、よい査読を表彰する制度が紹介された。健康教育学会誌では、すでに述べたように、編集委員以外の査読者に図書カードを送っている。まだ投稿数が十分でないので、学会経費における金銭的負担はさほどのものではない。しかし投稿数が増えて例えば年間200となり、それに対して外部査読者が150人とかになってくれば、図書カード代は結構な額となる。しかも投稿料をいただいていないので、すべては賛助会員を含む学会員の年会費から賄わなければならない。この図書カード方式を続けていると、学会誌が充実してくることによって金銭的負担の心配もでてくることになる。その際は、別のタイプのアワードを真剣に検討すべきであろう。

第2に査読前後の確認である。特に査読に回す前の確認は重要である。かつては編集委員長がすべてをやることもあった。しかしながらかなりの負担となる。そこで前高橋委員長のときから、編集委員が担当編集委員としてその作業を行うようになった。現在では15名の編集委員がその確認作業をしている。結果として、査読前に論文が不採用になることもある。査読前に投稿規程にそっていない原稿の書き直しをしてもらった上で再投稿を依頼することもある。この作業は今後編集事務レベルでもある程度可能になるであろう。もっとも効率的な方法を今後検討していく予定である。

第3は、採否に関する意見である。これに関しては、本学会の論文査読担当編集委員と査読者も、採否に関するコメントはすることになってい

る。しかしながら、最終決定はしない。2名の査読者と担当編集委員の見解は一致することが多い。ただし異なる場合もあり、その際は第3の査読者に追加査読を依頼することもある。最終的には査読者と担当編集委員のコメントを参考に、編集委員長の見解のみを述べるようにしている。

最後に著者の匿名化についてである。「それはやめるべき」というのが中村氏の見解である。これについては、編集委員会でもかつて議論したことがある。匿名化をやめる、という決断にはまだ至っていないものの、近い将来そうなる可能性は高い。

続いて第2部では主として実践報告への査読についての議論があった。議論の詳細は甲斐、小熊氏の特別報告を参照されたい²⁾。中村氏から提言された内容で、特に注目したいのは日本疫学会による研究支援制度の紹介である。本学会でも、特に実践報告に関しての研究支援制度ができれば、多くの実践活動家には大きな助けになるのではないか？

これらの提言は今後できるだけ活かしていきたい。今回のセミナーを一度きりのイベントとして終わらせず、提言を活かすことによって、学会誌の質の向上をめざしていきたい。その具体的な活動の1つとして、今年度も、編集委員会を中心に論文査読或いは執筆に係るセミナーを学会主催セミナーとして開催することになっている。詳細は、学会HP等で今後案内される予定である。次回もまた、会員、非会員を問わず積極的な参加を希望したい。

文 献

- 1) 中村好一. 公衆衛生分野の学術誌における査読のあり方：査読に対するひとつの私見. 日健教誌 2012; 20: 131-137.
- 2) 甲斐裕子, 小熊祐子. 健康教育・ヘルスプロモーション論文の質向上のための査読を求めて—論文査読セミナー ディスカッションの記録—. 日健教誌 2012; 20: 138-142.

(受付 2012.4.19.; 受理 2012.4.20.)